

全体	No.3 2
個別	07-01

平成27年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

課 名	農 林 ・ し いた け 課
-----	----------------

No.	項 目	對馬椎茸” やる倍” ナバダス計画総合対策支援事業
	1. 組 織 目 標	<p>【 内 容 】</p> <p>『對馬椎茸” やる倍” ナバダス計画』に基づき、計画的にしいたけ振興策を図ります。</p> <p>①生産者のやる気を倍増 価格の安定化(しいたけ安定価格買取)</p> <p>②生産量を倍増 作業の効率化(生産団地・省力化機械器具導入、種駒補助制度)</p> <p>③系統(全農市場)外出荷量を倍増 分業化・安定供給(量、品質、納期)に向けたルールづくり</p> <p>【 指 標 】</p> <p>○大型生産団地導入支援 1 団地 ○しいたけ生産推進 種駒補助1,300万個 原木補助26万本 ○對馬しいたけ販路拡大流通体制構築支援 物産展10回 調理方法開発・発信 1 式 ○しいたけ生産者後継者 3 名 選別作業員 8 名 ○生産量 乾80トン 生80トン</p>
	2. 実績(成果)	<p>○大型生産団地導入支援 1 団地 (しいたけ生産組合小鹿協業体) ○しいたけ生産推進 種駒補助 約1,217万個 原木補助 約25万本 ○對馬しいたけ販路拡大流通体制構築支援 物産展40回 ○しいたけ生産者後継者 3 名 選別作業員 8 名 全員が委託先の(株)翔榮において正規雇用 ○生産量 乾47.9トン 生82.2トン</p>
	3. 評 価	○
		<p>全国的に凶作の中で生産量、生産額ともに前年を下回ったものの、原発事故によるセシウム風評被害も収束を迎えつつあります。品薄感から市場取引価格も上昇してきています。国の緊急雇用創出事業臨時特例基金事業を活用した担い手・後継者対策において、委託先の(株)翔榮にて全員正規雇用の成果を得ることができました。一昨年から続く凶作により生産量が落ち込んでいるものの、地道な営業活動により新規販路開拓及び拡大が実を結びつつあります。</p>
	4. 今後の展開	<p>第3次しいたけ振興計画「對馬椎茸” やる倍” ナバダス計画」では、生産体制の充実を図ることはもとより、流通体制まで大きく踏み込んだ計画を策定しました。安全安心なしいたけの新規販路開拓・消費拡大に向けて、関係機関一丸となって取り組みます。</p>

全体	No.33
個別	07-02

平成27年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

課 名	農 林 ・ し い た け 課
-----	-----------------

No.	項 目	市有林整備の推進による循環型森林資源活用のためのオフセット・クレジット提案事業
	1. 組織目標	<p>【 内 容 】</p> <p>国・県等の補助制度等の活用による間伐事業を現状の森林状況に沿った計画的な間伐を進めます。なお、J-V E R制度については、平成24年度までにクレジット発行まで出来たことからクレジットの売買を加速させます。また、間伐材売払金及びクレジット売買収入金による基金を森林整備の財源として利用します。</p> <p>【 指 標 】</p> <p>【市有林整備】</p> <p>①森林整備面積：16ha（利用間伐）②路網整備：L=3,000m</p> <p>【 J - V E R制度関係】</p> <p>①クレジット売買のための企業訪問やイベントへの参加（5回）</p> <p>②クレジット販売：100t-CO2（収入金：800千円）③新規契約件数：3件</p> <p>【基金の活用】</p> <p>①ツシマヤマネコの森林づくり事業委託料（1,500千円）</p> <p>②森林環境に配慮した森林整備補助金（2,500千円）</p>
	2. 実績（成果）	<p>【市有林整備】</p> <p>①施業実施面積：利用間伐 面積（7.86ha）材積（830.7m³）</p> <p>②路網整備：1,467m</p> <p>【 J - V E R制度関係】</p> <p>①クレジット売買の為の企業訪問及びイベント参加：8回</p> <p>②クレジット販売：10件 70t-CO2（収入金：714,600円）</p> <p>③新規契約件数：5件 ●クレジット残量：1,211t-CO2</p> <p>【基金の活用】</p> <p>①ツシマヤマネコと共生する地域森林管理行動計画策定業務 1,490,400円 委託業者：(株)愛植物設計事務所 モデル地区（舟志地区）説明会2回</p> <p>②対馬市環境配慮型森林整備補助金交付要綱制定（平成27年2月1日） 補助金申請 0件</p>
	3. 評 価	△
		<p>●間伐実施面積が7.86haと計画に満たなかったが、12林齢の山林で素材生産量は増加している。しかし分収林契約の山林であるため、市6民4の割合にて間伐材売払収入は、前年並みの364万円を森・川・里・海環境保全再生基金に充当しました。</p> <p>●新規契約はあったが、売買数量が少量であったため、前年より50t-CO2減で収入も60万円の減収となる。</p> <p>●舟志地区をモデル地区として、ツシマヤマネコ等の生物との共生を目指した森林施業のあり方を検証していくために森林所有者との意見交換が出来た。</p>
	4. 今後の展開	<p>森林の有する諸機能を高度に発揮させるために、適正な森林施業を実施し、健全な森林資源の維持増進を図ります。また、J-V E R関係においてはクレジット販売を強化するため、引き続き全国イベントへの参加や埼玉県制度への本格参画のため、埼玉県内の目標未達成事業所への売り込みを継続して行います。</p>

全体	No.34
個別	07-03

平成27年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

課 名	農 林 ・ し い た け 課
-----	-----------------

No.	項 目	対馬猪鹿活用促進事業
	1. 組 織 目 標	<p>【 内 容 】</p> <p>対馬猪鹿活用促進事業で、防護柵の位置情報、捕獲情報等の有害鳥獣対策の現状把握をさらに進め、要請があった地区には直接出向き、地域住民に情報をフィードバックしたい。ただし対策の主体は地域であり、行政は対策をサポートするため蓄積された情報を根拠に効果的な体制づくりのサポートに徹したい。(行政依存体質の脱却)</p> <p>被害対策を推進するための防護柵の整備については、新規柵の整備、既存柵の機能向上、居住区域内安全対策、家庭菜園等防護柵と、事業メニューが多く市民の理解度が低い事から、期間を定めて「イノシシ・シカに関する対策相談」等を個別に開催し、農業振興と被害対策についての正確な情報提供に努める。</p> <p>また、農林業従事者、有害鳥獣捕獲従事者、行政担当等でワークショップを開催し、農林業振興と有害鳥獣問題を横断的、多面的に話し合い問題解決に向けた意見の集約を実施する。さらには有害鳥獣対策に多くの市民が関わるためのきっかけに皮革製品や食肉加工品等、利活用の普及啓発活動を行う。</p> <p>【 指 標 】</p> <p>①地域主導の被害対策推進地区増加数：5地区 ②地区捕獲隊増加数：5地区 ③「イノシシ・シカに関する対策相談」開催：12箇所 ※対馬振興局農業振興普及課による農業指導も同時開催計画。 ※各町2箇所ずつ島内12箇所で開催。 ④ワークショップ開催：年4回 ⑤有害鳥獣利活用及び人材・担い手（対馬の子供達）育成 ⑥各種防護対策の実施</p>
	2. 実 績 (成 果)	<p>①地域主導の被害対策推進地区増加数：3地区 (居住区域内安全対策として防護柵を集落周辺に設置) ②地区捕獲隊増加数：4地区(厳原町上槻地区、厳原町安神地区、峰町佐賀地区) ③「農業相談会及び防護柵要望受付」開催：0箇所 ※農業相談会ではなく被害対策サポート事業として島内全域に随時職員が出向き対応 ④ワークショップ開催：1回(対馬いとなみ協議会主催：10/18 約50名参加) ⑤厳原中学校1年生約60名対象に有害鳥獣対策の授業実施(合計10時間) イノシシソーセージづくり教室(対馬市民 約20名参加) レザークラフト講座(対馬市民、市職員等) 資源活用推進(衛生的な解体・加工実施、皮革を活用した普及啓発活動実施) ⑥各種防護対策の実施(国交付金、市単独補助事業を活用)</p>
	3. 評 価	○
		目標はほぼ達成できましたが、今後においても継続した取り組みが必要です。
	4. 今 後 の 展 開	<p>今後は、やる気ある地域を積極的にサポートし、地域住民に自信とやる気を持ってもらう必要があります。(小さな成功体験の積み重ね)</p> <p>資源活用については、多くの市民を巻き込んだ有害鳥獣対策を促進するためのツールとして、積極的に取り組み、さらには、対馬の新たな産業、雇用創出に繋がり、地域を守る事がお金になる仕組みを構築する事に取り組みます。</p>

全体	No.35
個別	07-04

平成27年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

課 名	農 林 ・ し い た け 課
-----	-----------------

No.	項 目	学校給食地場農林水産物導入事業
	1. 組 織 目 標	<p>【 内 容 】</p> <p>学校給食での地場農林水産物利用に係る食材供給について、特産・推奨品である椎茸・あか牛・野菜及び水産物購入への支援を行います。</p> <p>【 指 標 】</p> <p>農林水産物の需給システムを構築します。</p> <p>学校給食に地場産品を使用する割合：重量比</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米 年40回 (補助限度回数) ・ しいたけ 100% ・ 野菜 ※ 30% ※野菜は、しいたけ・果物を除くすべての野菜 <ul style="list-style-type: none"> うち、アスパラガス 60% たまねぎ 40% じゃがいも 40% ・ 海藻類 年30回以上 ・ 魚介類 年35回以上
	2. 実 績 (成 果)	<p>需給システム構築のため、農協、振興局、給食栄養士及び市で協議を行いました。</p> <p>学校給食に地場産品を使用する割合：重量比</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米 年54.6回 ・ しいたけ 89.8% ・ 野菜 ※ 15.6% ※野菜は、しいたけ・果物を除くすべての野菜 <ul style="list-style-type: none"> うち、アスパラガス 67.7% たまねぎ 27.4% じゃがいも 25.1% ・ 海藻類 年33.5回 ・ 魚介類 年46回
	3. 評 価	△
		<p>海藻類、魚介類については目標を達成し、前年よりも使用回数が増加しています。また、アスパラガスについても同様に目標達成していますが、野菜全体としての使用割合はまだ少ない状態です。</p>
	4. 今 後 の 展 開	<p>地場産野菜の使用割合を高めるため、農家や農協に協力を仰ぎながら、安定して供給出来る体制を整えて、目標達成に向けて取り組みます。</p>

全体	No.36
個別	07-05

平成27年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

課 名	水 産 課
-----	-------

No.	項 目	「海洋保護区の設定」
	1. 組 織 目 標	
		<p>【 内 容 】</p> <p>水産資源の持続的利用と伝統的な漁業の継承を図るために「海洋保護区」の設定を目指します。設定推進協議会は、科学的根拠に基づく科学委員会の答申を検討し、区域設定や区域内の資源管理計画を策定し、国や県などに働きかけて対馬らしい海洋保護区の設定を目指します。</p> <p>【 指 標 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 魚種漁法毎の7部会等を通して資源管理計画を作成します。 ② 科学委員会報告書概要版、海洋保護区リーフレットを配布します。 ③ 海洋保護区PR番組、ホームページ等を作成します。 ④ 資源管理活動のデータ化を行います。 ⑤ 海洋保護区設定に関連する国内法、国際法の整理を行います。 ⑥ 九州大学等外部研究機関との連携を深めます。
	2. 実 績 (成 果)	
		<ol style="list-style-type: none"> ① 魚種漁法毎の部会の設置及び資源管理計画の作成には至りませんでした。 ② 科学委員会報告書概要版、海洋保護区リーフレットを市内小中学校、各種イベント等で配布しました。 ③ 海洋保護区PR番組（第4話～第6話）、ホームページを作成しました。 ④ 資源管理活動のデータ化には、至りませんでした。 ⑤ 関連する国内法、国際法を抽出しました。 ⑥ 九州大学等外部研究機関と連携し、トレーサビリティの実証実験等に取り組みました。
	3. 評 価	△
		<p>対馬版海洋保護区設定推進に向け、海洋保護区設定推進協議会において、たたき台として「(仮称)海洋保護区しまうみ運営規範(第一次案)」を作成し、協議・検討を行いました。</p> <p>魚種・漁法毎の資源管理計画については、本格的な議論を始めることはできませんでした。</p> <p>普及啓発のため、「対馬市海洋保護区」のホームページを開設したほか、CATVによるPR番組の放送、科学委員会報告書概要版や海洋保護区リーフレットを配布しました。</p>
	4. 今 後 の 展 開	
		<p>引き続き「(仮称)海洋保護区しまうみ運営規範(第一次案)」の内容検討を行うとともに、海洋保護区設定推進に向け、まずは導入を実現するため、共同漁業権の海域において、魚種・漁法毎の資源管理計画を作成します。また、海洋保護区PR番組の放送、科学委員会報告書概要版やリーフレットの配布等により、対馬の海の重要性や海洋保護区設定の必要性についてPRします。</p>

全体	No. 37
個別	07-06

平成27年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

課 名	水 産 課
-----	-------

No.	項 目	「対馬食通祭の開催」
	1. 組 織 目 標	<p>【 内 容 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の拡大及び対馬産の需要度を高めるために対馬市産物消費拡大推進事業（対馬食通祭）を展開します。 <p>【 指 標 】</p> <p>○3ヶ月間のイベントを実施。期間中はオープニング、中間、エンディング、期間中の4つのイベントを開催します。</p>
	2. 実 績 (成 果)	<p>1 島内でのイベント</p> <p>① オープニングイベント 11月22日(日) 会場：厳原 参加のべ人数1,000人</p> <p>② 中間イベント 12月19日(土) 会場：厳原 参加のべ人数400人</p> <p>③ 中間イベント 12月20日(日) 会場：上対馬 参加のべ人数300人</p> <p>④ エンディングイベント 1月31日(日) 会場：美津島 参加のべ人数1,200人</p> <p>⑤ 期間中のイベント 11月1日(日)から1月31日(日) 参加のべ人数10,500人 期間中、島内45店舗で対馬の食材を使用した料理を食べた方(1,000円以上)にビンゴカードを配布。配布枚数10,500枚(ビンゴ大会を②～④のイベント時に併せて開催)</p> <p>2 島外でのイベント</p> <p>① RKBラジオまつり 10月17日～18日 会場：福岡市 参加のべ人数700人</p> <p>② よりあい処つしまでのイベント 11月22日 会場：福岡市 参加のべ人数150人</p> <p>③ NTT西日本対馬食材フェア 11月26日 会場：福岡市 参加のべ人数150人</p>
	3. 評 価	○
		<p>延べ1万4千4百人の方に対馬の農水産物の魅力を広めることができ、消費拡大の促進と対馬産地名度の向上へと起因する事業を行うことができました。また、初年度事業の目的である提供する側と食べる側の双方ともに、改めて対馬産に対する認識を深めることができ、「メイドイン対馬」の情報発信を効果的に行いました。</p>
	4. 今 後 の 展 開	<p>本事業は、27年度で終了となるが、今後も対馬の農水産物の魅力を広め、対馬産の知名度を上げることで、魚価の向上へと繋げたい。また、販路拡大、消費拡大の推進はもとより、これまで以上に地産地消の推進を進める上では島内の流通体制の整備を図る必要があります。</p>

全体	No.38
個別	07-07

平成27年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

課 名	水 産 課
-----	-------

No.	項 目	「魚礁設置」
	1. 組 織 目 標	
		<p>【 内 容 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚礁を地先漁業権内に設置し、漁業生産量の確保を図ります。近場の漁場を整備することにより漁業者の高齢化にも配慮した環境を整えることができます。 <p>【 指 標 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚礁12,000空^m (小綱1・小綱2・水崎1・水崎2・阿連：7,500空^m 高浜・安神・久和：4,500空^m)
	2. 実 績 (成 果)	
		<ul style="list-style-type: none"> ・小綱1工区 (小綱地先) 1,571空^m 【前年度製作1,112空^m含む】 ・小綱2工区 (小綱地先) 1,422空^m ・水崎1工区 (水崎地先) 1,513空^m ・水崎2工区 (水崎地先) 1,513空^m
	3. 評 価	△
		<p>・平成26年度繰越事業分は実施しましたが、平成27年度事業については測量試験実施及び安神工区・久和工区で年度末に契約締結したのみでした。平成28年度は平成27年度繰越分を含め実施へと繋げていきます。</p>
	4. 今 後 の 展 開	
		<p>・平成28年度は、平成27年度繰越事業分と平成28年度事業分を完了できるように取り組みます。</p>

全体	No. 39
個別	07-08

平成27年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

課 名	水 産 課
-----	-------

No.	項 目	「水産物の輸送費補助」
	1. 組 織 目 標	<p>【 内 容 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産物を島外へ出荷する際の輸送コストに係る経費を財政的に支援することで、漁業者の所得安定及び減少に歯止めをかけ、漁業の発展へ繋がります。 <p>【 指 標 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・168万2千箱分に対して支援を行います。
	2. 実 績 (成 果)	<ul style="list-style-type: none"> ・171万2千箱に対しての支援を実施しました。
	3. 評 価	<div style="text-align: center; font-size: 2em;">○</div> <p>・昨年度は対前年比7%減と予想を下回りましたが、今年度は目標168万2千箱分に対して171万2千箱分と1.8%ではありますが増加となり、漁業者の負担軽減に努めました。</p>
	4. 今 後 の 展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度は、平成27年度分以上の実績を見込んでいます。

全体	No.40
個別	07-09

平成27年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

課 名	基 盤 整 備 課
-----	-----------

No.	項 目	基盤整備工事の早期発注、早期完成
	1. 組 織 目 標	
	<p>【 内 容 】</p> <p>公共工事の早期発注、完成を図るため、12月末まで委託業務完了100%を目指します。事業効果の早期発現を図るため、12月末まで工事執行100%を目指します。</p> <p>【 指 標 】</p> <p>平成27年末完了予定額 100%目標 (1,372百万円)</p> <p>平成27年末完了予定件数 委託 13件 工事 21件</p>	
	2. 実 績 (成 果)	
	<p>平成27年末(12月)完了額 実績額 1,372百万円中、1,004百万円 73.0%</p> <p>平成27年末(12月)完了件数 実績件数 工事 24件中、19件 委託 21件中、11件</p> <p>漁港事業においては、新規着手工種が多数発生したことにより、設計協議に日数を要し進捗が遅れました。また、工事については諸手続きの遅延や、同一工種における前年度繰越工事の工期制約を受けたため執行が遅延しましたが、繰越工事は縮減傾向にあります。</p> <p>林道事業については、新規路線の設計協議に日数を要したため、工事発注時期が遅れ、目標を達成することができませんでした。</p>	
	3. 評 価	△
	<p>早期着工については、国の早着認可制度等を利用して行いましたが、新規着手工種の許認可事務及び、測量、調査、設計等の委託業務や地元協議に時間を要した事により、本工事着手が遅れ目標100%達成が出来ませんでした。</p>	
	4. 今 後 の 展 開	
	<p>未着手分の早期着工及び新規工種の断面決定を行い、計画的に各種事務処理手続きを完了させ、工事の早期完成を目指します。</p> <p>また、地元要望に迅速に対応するため、関係者と連携を取りながら適切かつ有効な事業計画の立案に努めます。</p>	